

水害から避難する難しさ

西日本豪雨の被災地・真備町で

都議会議員 早坂義弘

西日本豪雨では、229人
私は支援と調査のために、
もの死者・行方不明者（7月
大きな被害があった岡山県倉
30日現在）が発生した。心が
敷市真備町を、仲間の防災士
らお悔やみとお見舞いを申し
と共に訪ねた。
上げるとともに、一日も早い
私が被災地に入ったのは、
最初の避難勧告発令から1週

間後の7月13日。被災地の状
上立った状態のまま、胸ま
況は日々刻々と変化し、人的
で水に浸かったという。「そ
被災のあった県は、21府県に
の時はずっと駄目だと覚悟しま
及ぶ。7月29日には西進した
した」と話すこのご主人は、
台風12号が被災地を再び襲っ
た。この記事が読者の目にと
まる頃には、状況は大きく変
化しているだろう。

想定したものだったからだろ
う。都内の広域避難場所も同
じで、高さは考慮されていない。
したがって河川敷が指定
されているところもある。
都港湾局の高潮浸水想定で
は、5m以上の浸水予想区域
は実に11区に及ぶ。そこでは
3階以上の高さに避難する必
要があるが、住宅地にそうし
た建物は限られている。地域
全体をかき上げるスパー
堤防が避難場所としても有効
だ。また区内だけでなく、近
隣県や区市への避難も考えな
なくてはならない。

したがって私が見聞きした
ものは、限定された地域の、
ある特定の時点のものに過ぎ
ない。その点を踏まえた上で、
本稿のテーマを「水害からの
避難」に絞り、もし東京だっ
たらという観点から論を進め
たい。

に運んでもらったという。
東京の場合、対象となる人
的規模が膨大だ。避難計画の
策定は、基礎自治体である区
市町村の役割だが、一自治体
だけで収まる話ではなく広域
連携が必要だろう。東京都の
積極的な関与が求められる。

■日頃の教育・心 構え・準備

レンタルカーで真備町服部地
区を回った際、水に濡れた生
活用品を、家の外に運び出し
ているご主人からお話を聞い
た。それによると、避難勧告
が出ていることを知っていた
にもかかわらず、まさかと思
い、避難しなかったそうだ。
それがみるみるうちに床上浸
水し、避難するタイミングを
失って、2階にあるベッドの

先で紹介したご主人も、避
難のタイミングを逸した例
だ。それをいかに早くするか
が重要で、そのためには日頃
の意識啓発が大切だというこ
とは、先に述べた。

■3つのポイント

避難のポイントは三つあ
る。
第一は避難場所だ。倉敷市
立川辺小学校は、避難場所に
指定されているにもかかわらず
浸水した。これは大地震発
生の火災からの避難だけを

第三は避難手段だ。実際の
避難は、雨風が相当強くなっ
てからだすれば、災害弱者
と呼ばれる障害者・子供・高
齢者・妊産婦にはどうしたら
安全に避難してもらえらる
うか。日本語が分からない外
国人にも情報を正しく伝える
必要がある。私がお会いた
倉敷市立二万小学校に避難し
が、なるほどそういうものな
のかもしれない。

水没した家屋から助け出されたご主人と筆者(左)

